

■ 日本交通学会 第 71 回研究報告会 概要



2012年10月6日(土)・7日(日)の2日間、日本大学理工学部 駿河台キャンパスにおいて、日本交通学会 2012 年 第 71 回研究報告会(研究報告、シンポジウム)、2012 年度総会および懇親会を開催しました。

本年度の研究報告は、合計 28 件(初日:4 件、2 日目:24 件)について 7 セッション(「公民役割」4 件、「鉄道」3 件、「バス」4 件、「道路」4 件、「航空・海運」5 件、「地域交通1」4 件、「地域交通 2」4 件)に分かれて行い、2 日間で 130 名以上の方が聴講されました。

が、今後、日本がインフラ整備を進めるにあたってのリスク分担のあり方や資金調達、民間参入の仕組みづくりなど、取り組むべき研究課題について再認識させられる機会となりました。



シンポジウム終了後、昨年の選挙で会長に就任した中央大学の塩見英治教授による会長講演「新時代における空港改革の課題と展望」が行われ、2012 年度総会を開催しました。

総会では、前年度の会務および決算の報告、今年度の予算の承認に加え、前期 9 名、後期 9 名の新入会員の紹介などが行われました。

続いて、2011 年度日本交通学会賞を受賞した関西外国語大学の宮下國生教授(著書の部:『日本経済のロジスティクス革新力』)および一橋大学の原田峻平氏(論文の部:「大都市高速鉄道の費用構造に関する分析」『交通学研究 2011 年研究年報』)に対し、塩見会長から賞状と副賞が授与されました。

表彰に際し、日本交通学会賞の選考委員長である慶應義塾大学の中条潮教授から、著書の部については、学会賞は著作に対するものであり、同じ著者であっても何度でも受賞できること、また、論文の部については、特に若い研究者に奨励的に表彰されるものであることから、会員の方々はぜひ奮起して挑戦していただきたいという激励のメッセージがありました。

(宮下國生教授)



(原田峻平氏)



初日の午後には「交通インフラにおける公・民の役割の再検討」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。

前半では、まず、日本大学の加藤一誠教授からシンポジウムの趣旨説明があり、続いて、日本大学の黒沢義孝教授より「資金調達からみた公と民」、プライスウォーターハウスクーパース株式会社の片山竜氏より「わが国における PPP の現状と課題」、慶應義塾大学の田邊勝巳准教授より「空港への民間活力の導入と課題」、東日本高速道路株式会社の西川了一氏より「世界の高速道路事業の潮流からみた我が国へのインプリケーション」と題して、国内外の事例紹介も含めた報告が行われました。

後半では、加藤一誠教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションが行われ、フロアからの質問も踏まえた議論が展開されました。

シンポジウムには会員・非会員含めて 120 名以上の方々にご来場いただき、限られた時間の中ではありましたが、



夜は、同キャンパス内のカフェテリアにて懇親会を開催し、日本大学理工学部長の滝戸俊夫教授や、シンポジウムのパネリストの方々も交え、80名以上の参加者で相互に親睦を深めました。

このようにして、2日間で延べ190名の方にご参加いただき、すべての行事が滞りなく終了いたしました。

最後に、今年度の研究報告会の開催にあたり、昼夜問わず、長い期間、準備と運営に多大なるご協力、ご尽力賜りました日本大学理工学部の轟朝幸教授、金子雄一郎准教授、西内裕晶助教、経済学部の加藤一誠教授、手塚広一郎教授および事務スタッフ・学生の皆様に、心より感謝のお礼を申し上げます。

(事務局記)

